

## 岡山大学の保育者養成

### 一

入学最初のオリエンテーションのときに、初等教育の尊とさと面白さを説くことと、幼稚園教諭の免許状がとれることを、私は強調することを忘れないことにしている。大多数の新入生は、はじめはあっけにとられているが、こちらが馬鹿げてるほど大真面目であることが分つてくると、次第に初等教育に、

ずかしくない一番適切なやり方で幼稚園教諭養成をやっているわけではない。むしろ、ほとんど最低の必要条件をみだすに足るだけのことが辛うじてそろえてあるに過ぎない。こういうやり方でも、幼稚園教員養成ができる、という見本を、まだ手をつけない国立大学に示すだけのねうちしかないといつてもいいのである。

### 二

ついに幼児の教育にも興味をもつようになる。現在、私の「幼児の教育」の講義には、百名をはるかに越える学生が押しかけてきている。

幼児の教育に直接関係のある講義として、先ず、「幼児の教育」(二単位)、「幼児の心理」(二単位)があげられる。前者は、免許法に

といて、岡山大学で、どこに出してもは

ある分類では教育原理の単位の一つであり、

後者は教育心理に属するのはいうまでもない。初等四年課程(私の大学では創設のときからこの言葉を使っている。卒業証書にもこのことばを使う)では、教育原理や心理をそれぞれ五単位履修した上に、幼稚園の免許状をとるものには、これを履修するように勧奨している。

「保育内容の研究」については少し恥づかしい。実は、「教材研究」の中に幼児向のものを含みこんだものを、できるだけ各科に一乃至二単位出してもらおう各教室に頼んでいるのであるが、実際には「健康教育」「体育教材研究」「リズム」「図画教材」「工作教材」「音楽教材」のそれぞれ一単位が、先ずこれに該当する内容をもって出されている。したがって、これらを指定して「保育内容の研究」の単位とすることができるようになっている。

無論、小学校の「教材研究」は十六単位必要なのであるが、私の大学ではそれより相当上廻る数の講義を出しているので、免許法の要求通り、前述のような六単位を保育内容の研究として引き去っても、十六単位をその上に教材研究としてやれるようにしてある。

前掲の科目がいちじるしく偏っているのは

残念であるが、その外に、「理科教材研究」、「社会科教材研究」等の中でも幼児のことが言及され、国語の専門科目の中に「幼児語の研究」の講義などがあることも、つけ加えておきたい。

なお、教材研究と保育内容の研究とを併せて二十二単位以上（二年課程では十二単位）をとれば文句はないが、前述の通り単位が偏っているためなどで履修ができなくて二単位不足するような場合には、「幼児の教育」か、「幼児の心理」かの二単位を保育内容の研究の単位に換えることができるようにしてある。

来年度からは、昨秋の研究集会の成果をとり入れて、改善を加えたいと思っている。

### 三

申しおくれたが、幼稚園の場合に必修になっている専門科目としての、図画、工作、音楽、体育については、初等課程の学生はこれをそれぞれ二単位ずつは必修にしてしまっているため、それにそれぞれ二単位をつけ加えさせればいいことになっているので、大した問題ではない。

教育実習については、従来、県立幼稚園教

員養成所が併設されていて、附属幼稚園はその実習機関であるかのごとく学生が思っていたので、あまり成功を修めてきたとはいえない。最近になって、はっきりと附属幼稚園は

学部学生の実習機関であると性格付けをし、実習期間八週間のうち一週間は幼稚園に実習をやることにした。むろん、その外に特に希望する者はより長期間実習することも認めている。男子の学生の中にも興味をもつものが多くなるようになり、実習に観察にとても熱心であって、効果をあげているように思う。

### 四

昭和三十年三月に卒業もしくは修了した者のうちで、幼稚園教諭一級普通免許状を取得した者は八名（うち五名男子）二級は二十九名（全部女子）となっているが、三十一年三月にはおそらく合計百名を越えるであろう。本年は園に就職希望の者は二名あったが、一名は小学校にまわされ、一名だけが就職している。

現在、修学年限一ケ年の県立幼稚園養成所が併設されているが、法律による存続猶予期

間もあとわずかであり、二ケ年の養成所をつくる意志は県教委側にもないので、わが学部が唯一の、養成機関たらざるをえない日も近づいている。文部省では、普通の国立の教員養成大学学部では、幼稚園教諭を真正面から養成するコースを置くことは将来といえど

も、しないと明言しているが、私どもも、教育奨学金の問題やら、学部の教官の定員や組織の問題から、幼稚園教諭を養成する独立のコースをたてようとする計画は持たない。飽くまでも、初等教育として小学校と幼稚園を一体とした教育を目指し、卒業生に名実ともに

小学校教諭に併せて幼稚園教諭の資格をも持たせるように努力していきたい。将来、非常に小学校教諭の需要が減った場合、二年課程を小学校教諭幼稚園教諭兼修課程のかたちで残そうとする案もあるが、いずれにしても、われわれのような地方における最大最良の本格的な初等教育者の養成機関であるよう、不断の努力をつづけていきたいと思っている。

（岡山大学教育学部 坂元彦太郎記）